

平成二十五年 度

岡山県立岡山操山中学校

適性検査Ⅱ

【注意】

・ この検査は、文章や資料を読んで、太字で書かれた課題に対して、答えやあなたの考えなどを書く検査です。課題ごとに、それぞれ指定された場所に書きましょう。

・ 検査用紙は、表紙（この用紙）をのぞいて三枚あります。指示があるまで、下の検査用紙を見てはいけません。

・ 「始め」の合図があつてから、検査用紙の枚数を確かめ、三枚とも指定された場所に受検番号を記入しましょう。

・ 検査用紙の枚数が足りなかったり、やぶれていたり、印刷のわるいところがあつたりした場合は、手をあげて先生に知らせましょう。

検査用紙の

※

には、何も書いてはいけません。

・ この検査の時間は、四十五分間です。

・ 表紙（この用紙）と検査用紙は、持ち帰ってはいけません。

※

3※

2※

1※

課題1 次の文章を読んで、あとの(1)から(4)に答えましょう。

えらい人の書いた文章はどこか冷たい。不必要な漢字がたうち廻っている。いちばん情けないのは、一度だけでは意味がとれないで、外国語みたいに、同じところを二度も三度もなぞってみなくてはならないこと。声を出して読むと舌をかみそうになる。

一度読んでわからないくらいだから、おもしろくないのは当たり前かもしれない。お経の文句なんかなら別だが、普通の文章は、おもしろくなくてはつまらない。書く人は読む人にもどサービスしてもらいたい。

「おもしろい」を誤解している人が多い。おもしろ、おかしいことだと思っただけである。そうではない。心にすんなり入ってくる文章がおもしろいのだ。もっとも、たまには上品なヒューマナーも、このおもしろいの中へ入れてもいい。

ケインズと言えば、イギリスの大経済学者だった人だが、なかなかしゃべられていた。

「長期的にみると、われわれはどうなっていくのでしょうか。」

ケインズ先生に向って、記者会見で代表記者が質問した。折しも、イギリスは大不況にあえいでいた。いつ、ここからは出せるのか、世間はそれを知りたがっている。大先生ならありがたい。託宣がいただけるのではないか。記者たちから期待の注目を浴びたケインズ先生、「さよう」と言って、ひと息入れた。

「長期的に見れば、われわれは……。」と言って、また、ひと息入れる。

「われわれは、みんな死んでるね。」

それを聞いた記者たちはどうも笑った。いいね、さすがだね、えらいもんだ、と喜んだ。答えになっていないが、そんな難しい問題をごとて論じてみてもしかたがない。それより笑い飛ばした方がいい。イギリスの新聞記者は笑って感心した。日本の新聞記者諸氏ならどうしただろうか。

それはとにかく、日本のえらい人(と自分で思っている人)の使うことばには汗のにおいがしない。頭の中でつなぎ合わせたような表現に汗くささがしないのは当然で、そういうプラスチック製みたいな文章が高尚だと思っている人がすくなくからずある。

『動物農場』で世界に知られたイギリスの小説家ジョージ・オーウェルが、かつてこんなことを言った。

イギリス人が額に汗して働くことがすくなくなつてから、英語はたくましさを使い、ひ弱になつてしまった。

国語をつよく美しくするには、その国民が体を動かしてはいけないというのである。

われわれ日本人はそのことを忘れてる。机に向つて、原稿用紙に文字を書きつけるだけが仕事というような人たちの書くものには汗のにおいがしない。生活に根をおろしていない。そんな文章がおもしろくなるはずがない。

忙しく働いている人たちのことには何とも言えない味わいがある。たとえば、漁師のことば。朝霧は雨、夕霧は晴れ——

この裏には無数の人たちの経験がある。

田舎のお婆さんの話にもきくべきものが多い。教育がないかわり、経験がある。われわれはすこし本の知識を信用しすぎる。売った買ったの株屋さんにしても、真剣勝負である。かれらのことわざには人情の機微にふれたものがいくらでもある。

「まだはもうなり、もうはまだなり」

「なだもそのひとつ。まだまだ値上りするだろうと思っただけで、それが天井で、あとは値下りしてしまつて、売場を失う。逆に、もう」これが限度だろうと思うと、さらにその先があつて、「まだ」であつたりする。人間の心理をとらえているから、株式の売買以外でもたいへん有益な教訓になる。こういうことばが「おもしろい」のである。

きのうテレビを見たら、皮の手芸を教えていた。女性の手芸家が「こうするときはまります」ということを何度も言ったのが、おかしかった。きまるというのは、この人にとってほかのことばにできない意味をもっているのだろうか、と思ひなほして、敬意を払った。これには汗のにおいがするのである。

\*1 ヒューマナー……ユーモア。

\*2 折しも……ちょうどそのとき。

\*3 託宣……人の口を借りて告げられる神の意志。

\*4 高尚……学問技芸などが気高く立派なさま。

\*5 株屋……一定の事業の中で、権利の持ち分となる株券を売り買いする人。

\*6 機微……表面的にはとらえることのできない、その時ときによる心の動き。

\*7 天井……ある物品につけた価格の最高値。

\*8 売場……売る時期。

(外山滋比古著『新編 ことばの作法』から。)

- (1) 「文」の読み方を変えて、「文章」と「文句」という熟語が作れたり、「売」の読み方を変えて、「売場」と「売買」という熟語が作れたりします。このように、漢字の読み方を変えてできる漢字二字の熟語の組み合わせを「組考えて、それぞれの読み方と熟語を書きましよう。ただし、読み方を変える字は「文」と「売」以外とします。

読み方	熟語

読み方	熟語



課題3 太郎さんは林業について調べるために、資料1から資料3を集めました。あとの(1)から(3)に答えましょう。

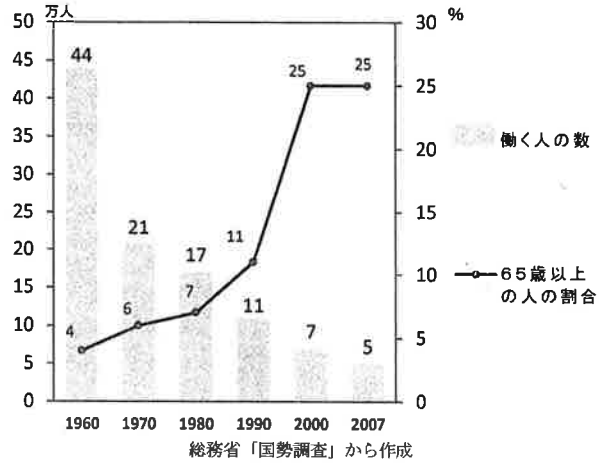
資料1 日本での木材供給量の内わけ

(単位は千m<sup>3</sup>)

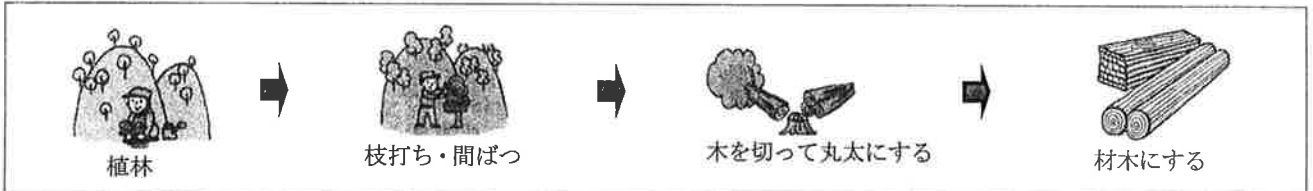
	木材供給量*	内わけ	
		国産量	輸入量
1960年	56,547	49,006	7,541
1970年	102,679	46,241	56,438
1980年	108,964	34,557	74,407
1990年	111,162	29,369	81,793
2000年	99,263	18,022	81,241
2010年	71,884	18,923	52,961

林野庁「木材需給累年報告書」から作成  
\*供給量…生産者が商品を出荷する量

資料2 林業で働く人の数とそのうち65歳以上の人の割合



資料3 林業のしごと



「おかやまの森読本」から作成

(1) 資料1と資料2のそれぞれから読みとれる変化を説明しましょう。

資料1	
資料2	

(2) 太郎さんは、資料1、資料2、資料3から、手入れのできていない森林が増えるのではないかと思います。このような森林が増え、森林のはたらきが弱まると、どんな問題がおこると思いますか。あなたの考えを書きましょう。


(3) 林業によって日本の森林のはたらきを守っていくには、どのようにすればよいと思いますか。資料1、資料2、資料3をもとにあなたの考えを書きましょう。
